

178

1 vol

7.00

Masanobu

178

12



人下

壬生忠孝
 天明のほきおく
 暁がり ことし
 うれあは うれ

みぢらう萩
 暁がり 若くは人の
 うれあは うれ

女情

天明の月がねるはらう萩のあけぬるおあてこれの
 つくしきもあつはかりせうう萩のあけぬるおあてこれの
 うらあけぬるおあてこれのあけぬるおあてこれの
 もあけぬるおあてこれのあけぬるおあてこれの

板ノ一



坂上見馴

朝がけの月とみる

よのくに

のくに

肌さそふうき

のくに

あれる白雪

女先

あつ月のうらみありの山をまよひたれぬのちうらみあり
 とるる者乃うとくありしうらみとあつ月のうらみあり
 時たかりしうらみのありかりしうらみあり
 白妙とくしうらみあり



人

板ノ三



表道列掛

山川の風のうけさら

みられも 志がらみち

わぬぬ しみぢりきり

深小袖うろろふあつち

みられも ぬーさそんて

わぬぬ しみぢりきり

娘踊

山川の風の本れんとほろくあけけけるあつち
 らことりてみられも何ぬてと風のうけさら
 何のぞとれみられもわぬぬみぢりきり
 うろろふあつちみぢりきりわぬぬぬーさそんて
 うろろふあつちみぢりきりわぬぬぬーさそんて



ト

板ノ尺



紀女則
 久々の光の紀
 吉川
 花乃らゆらむ

女方町

西風よ流れたりゆらゆら
 千金りのおねと
 吉川
 花乃らゆらむ



人

松又



孫原貞房

誰とくも

松もむじの地

友るるのり

鈴の末

松もむじの地

友るるのり

友に
お座
お座
お座

松もむじの友とて松のつとめは四ととてひかし
ひそくの末とて松のつとめは四ととてひかし
とて松のつとめは四ととてひかし
とて松のつとめは四ととてひかし
とて松のつとめは四ととてひかし



人



紀貫之

人吉のさくらも

花をむしりの花はる

昔も白ひりり

園寺に老本著ふ

花をむしりの

昔も白ひりり

老女

人の心もあらざと涙をなれぬ心むしりの花も
 里の春も小自ひりり夕なまらむ老本も花の
 花の海もよひりりくわさあざむとく
 けりひりり子るり世のきんぎんのぢげんまふ

物



ト

板七



清涼源長又
 友の無名あつて青
 雲乃のり
 月やらん

系涼女

友の上のわけ申せりよる月をめて申せりよる
 月のつらきりんとおしるうにありては
 申せりよる月をめて申せりよる
 友の上のわけ申せりよる月をめて申せりよる



ト

板九



右進
わさし
ゆ身よは
ふつれちひ
今
今れおしくも
阿侍うま

清水の藤巻う
今
今れおしくも
阿侍うま

女芸

ゆきつれづる我身と
まをれどいし人の
そちくほほれんも
まをれどいし人の
そちくほほれんも
まをれどいし人の
そちくほほれんも



平兼威

あふまきしつろよ出に
 ののやらふと 我意ハ
 人のさふまで

神あてわくや娘が
 ののやらふと
 人のさふまで

け
 娘

ふふふれとあひくると大母ひあまりのてを
 是は出たりとよわ念神あて娘のいさよまきて
 ねりりせとさふまて
 人のあふまで
 けつん
 とよまてまて

